

令和6年度 園評価書

高部こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている C : あまりできていない D : できていない)

1 教育・保育目	2 重点目標	評価指標	園説明 ○成果 △課題	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	☆改善策(来年度の具体的取組目標)
心豊かでたくましかったか べっこ	夢中になって遊ぶ	こども達は、「おもしろい」「なんだろう」と考え、試したり工夫したりしている	○個人差はあるが個々に好きな遊びを見つけ、試したり工夫したりしながら面白さや楽しさを感じ遊んでいる ○「おもしろい」と思った遊びを楽しむ中で、更におもしろいことに気付き楽しむ姿が多く見られた。また、「もっとこうしたらいいんじゃない」と子ども達が発見する姿が増えた。	A	A	・毎年、これ以上の保育があるのかと思うが、毎年課題があり、改善策もある。職員の皆さんがより良い保育をしようと意欲があると感じる。 ・毎週、振り返りを行い、研修体制も出来ている。その積み重ねが子どもに還元されていると思う。	・さらに夢中になって遊ぶために、個々の発達をおさえ、「最近接領域」を考えた個別援助を映像研修を使い行っていく ・安心できる関わりの中で、友だちと意見を交わしながら遊ぶまでのプロセスを捉えた関わりをしていく
		こども達は、自分の思いや感じたことを行動や言葉で表現し、夢中になって遊んでいる	○自分の思いや感じたことを言葉や表情などで表わしながら遊んでいる。 △友達とのやり取りが増えると、さらに夢中になって遊ぶ姿になる。そのために、伝える、聞く、葛藤する、受け入れる、話し合う等、年齢に合わせた発達の保障が必要。	A	A		・様々な遊びの中でどのような経験をしているのか、どのようなことが育っているのかを確認し合い、学んでいる姿を捉え、更に意欲的な環境作りを行っていく
		こども達は、「もっとやりたい」と自分から体を動かして意欲的に遊んでいる	○ジャンプしたり、腕や足を使ってバランスをとったりする運動遊びだけでなく、大型パネルや大きな板を友だちと一緒に運んだり組み立てたりする中で、作りたい物を形にしながら体を動かして遊ぶ姿がある。遊びの中でできた事を担任に伝えたり、友だちの姿を見て一緒に喜んだり「もっとやりたい」「明日もやりたい」という思いをもって遊んでいる。 △「やりたいくない」という気持ちも受け入れられるようにしていく	A	A		

II 領域に関わること 評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている C : あまりできていない D : できていない)

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	☆改善策(来年度の具体的取組目標)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一環した教育及び保育	職員は、各年齢の発達を捉え、子どもの行動や発見を認めたり、励ましたりしながら良さに目を向けるような援助をしている	○園内研修で「よさと可能性」を意識し保育者が肯定的に子どものことを捉え何故そうしているのかを見つけようとする目を持つようになった。 ○どの職員もクラスの枠にとらわれず全員で全園児に関わっている。各歳児に合わせた環境の下で遊びが展開される中にその学年以外の子がいる場合は、学年に合わせた環境を用意している。 △ただ各学年の発達に合わない環境も見られたため、発達の捉えを学ぶ必要がある。	A	A	・園説明にあった職員同士共有を更に行っていくという点では、職員の皆さんの勤務が一緒ではないので難しさがある。しかし、職員同士が「知りません」ではなく気にする姿勢が出てきたのは来年に期待したい。 ・田んぼも園庭で行っていたが、子どもの目の前で稲の生長や、害虫の発生に気付き駆除したことを聞くと、園庭でも十分に子どもたちに伝えたいことが伝わり教育的価値があったと思う。 ・小学校では、一人一台パソコンが普及し、以前に比べて触れる時間がかかり増えた。直接体験できるのはこの幼児教育の時代だけになっている。また、実体験をした子はパソコンの活用にも活かすことができる。	・「映像研」を続け、子どもの行動の裏を見て、「よさと可能性」を捉え、発達の押さえを深めていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	職員は、一人ひとりの子どもの発達や経験の差を十分に理解し、適切な環境構成や援助を行いウエルビーイングにつながるようにしている	○外部から講師を招き、先入観を捨て子どもを見るという多面的な子どもの見方を学び、子ども理解を深めた。 ○適切な関わりを行いながら、個々のよさを知ることができた。保育者も保育のよさや楽しさを知ることができ、職員自身のウエルビーイングにもつながっている。	A	A		・職員が「改善したほうがよい所をアドバイスして欲しい」、「引き出しを増やしたい」という意欲がある。学びを広げ、保育者で楽しい、もっと楽しもうに繋げられる研修を行っていく。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	職員は、子ども達が考えたり、試したりしながら、夢中になって遊ぶことができる環境構成や保育の工夫をしている	○日々のクラス間の共有、毎週行っている保育の振り返りを通して、環境をつくる意図や援助のねらいが見えてくるようになってきている。研修で得たことを報告で終わらないように、更に工夫できる場面や新たな環境などについても話し合い再構成をすることも意識できている。 △子どもの育ちを捉えた指導計画作成が、子どものどのような学びにつながるのか意識できるようにしたい	A	A		・振り返りで出た意見を参考に環境を再構成し保育を行い次週の振り返るというPDCAサイクルで検証し、次の保育に繋がるようにしていく
2安全管理・指導	(1)事故防止	園は、ヒヤリ・ハット場面を通して分析し、予防対策をしている	○会議でヒヤリハット・インシデントの分析報告をもとに、ポイントを見極めながら保育をしている △ヒヤリハットがあがってもすぐに共有できていない。	A	A		・ヒヤリハット等があった時には、すぐに書く習慣と環境を作っている。職員間の連絡ノート等を使用、翌日には周知していく
3保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、保護者と連携しつつ、手洗い、排泄等の基本的な生活習慣づけや感染対策をしている	○園で手洗い、うがい等の基本的な生活習慣の必要性や理由を子どもたちに伝えている。 ○感染症が出た場合は保護者にも周知し対策をしている。 △年齢に合わせた必要な生活習慣の積み重ねの部分意識していきたい。	A	A		・基本的な生活習慣を各学年で積み重ねができるように、繰り返し絵本やパネルを使い卒園まで継続的に指導を行っていく
4特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達に合った支援計画を作成し、園全体で共有し良さを捉えた関わりを重視している	○支援児や気になる子に対し、クラスの職員間で子どもの育ちを共有しながら一人一人の姿に合わせ、短期的、長期的計画を立て、実施が出来ている。 △園全体に支援児について共有する時間等があったら良かった。	B	B		・配慮の必要な子に対してのケース会議等を行い必要な支援を検討、周知していく。支援児としては様々な多様性の時代ということを踏まえた園内研修を行っていく
5組織運営	(1)組織体制の充実	園務分掌のリーダーを中心に取り組み、情報の周知をしている	○分掌のリーダーを中心に計画を進め、会議等で報告などが出来た △クッキング等突発的に入る計画についての企画書作りがしっかりできなかった	B	B		・自分の分掌でなくても、自分から知ろうとすることを心掛けていきたい。回覧以外のグループごと伝えるなどの方法も探していきたい
6研修	(1)研修体制の充実	園は、週1回の振り返りを行い、遊び環境について検討し夢中になって遊べる環境構成につなげている	○研修が始まる前にアイスブレイクを行い、話しやすい雰囲気になった。 ○保育の「振り返り」の中で、その週の保育を担当が省察しながら次週の保育の発展について話し合い夢中になって遊べる環境に活かしている。 △「振り返り」を毎週行う予定だが忙しさに流れてしまったり、時間がかりすぎてしまうことがあった。何にポイントを絞って話し合うのかを決めていきたい	A	A		・子どもの分掌でなくても、自分から知ろうとすることを心掛けていきたい。回覧以外のグループごと伝えるなどの方法も探していきたい
7教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	年齢の発達に応じたその時の興味関心に応じた環境を構成したり、教材を準備したりしている	○クラスで話し合ったり、研修で得た学びを子どもたちの興味関心に合わせ環境作りをしようと心がけた。 △経験の浅い保育者もあるため、一緒に環境を作り保育を行い、次の日の環境作りにつながるようなアドバイス園全体で行う必要がある	A	A		・職員がその日の保育を振り返り、次の日の環境を作るよう時間の保障をする。また、毎週の振り返り時にそのクラスの環境を見ながら具体的なアドバイスをしている。
8家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園だより、クラスだより、毎日のお便りボード等により、園の取り組みや園の様子を伝えている	○今までは、降園時を利用して園での1日の様子を伝えていたが、コドモンでのドキュメンテーションが始まり写真付きで分かりやすく様子を伝えることができる ○家庭支援が必要場合は個別に声を掛けたり、メモを渡すなど個別支援を行っている	A	A		・ドキュメンテーション作成を通して、日々の子どもの学びを保護者に分かりやすく伝えていく。
9近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園・近隣校との連携を図り、情報交換や研修を進めている	○地域のこども園、3園での交流を年2回行い就学先の小学校ごとグループ分けをして、自己紹介やゲームを一緒にするなどした。学区内の小学校2校との交流も行い、学校案内や授業見学を通して小学校が身近に感じられた。また、小学校が公開保育に参加してくれ、園の保育について知ってもらえるきっかけになった	A	A		・地域のこども園との交流も引き続き行い、様々な人と触れ合える機会を作る ・小学校の体験の回数を増やし、学校が更に身近に感じられるようにする。
10地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	豊かな体験が得られるよう、地域の様々な人との関わる機会を大切にしている	○環境学習やしめ縄作り、コマの方々に園に呼び様々なことを教えていただき、保育のエッセンスとなった。 ○田んぼの活動が園庭での活動になったが、受け継がれている高部こども園ならではの活動は引き継いでいきたい。 ○陽光園の方に踊りを披露したり、段ボールをもらったりした。子ども達が場面に応じて必要な挨拶やお願いするなど必要な言葉を使うことができた。	A	A		・積極的に散歩に出かけ、園内で味わえない自然や地域の方と触れ合い豊かな体験ができるようにしていく。特に隣の陽光園の訪問や、避難訓練で親しみを感じられるようにしていく。